



平成24年度宮崎大学診療科説明会

9月1日(土)にホテルプラザ宮崎において専門医養成プログラム連絡会及び卒後臨床研修センター主催で、平成24年度宮崎大学診療科説明会が開催され、研修医は1年次15名、2年次7名の計22名の参加がありました。診療科からは32名の参加があり、2分間という短い時間ではありましたが、診療科のアピールをしていただきました。

診療科説明後のフリータイムでは、診療科の先生方と研修医が積極的に医療について熱く語っている姿が見られました。今回の説明会で診療科と研修医の親睦を深め、より充実した研修になることでしょう。



研修医マッチング結果

平成25年度研修開始予定の「臨床研修マッチング」が行われ、医師は10月25日、歯科医師は10月30日に結果が発表されました。

医師

自主デザイン研修プログラム	37名
産婦人科/周産期研修重点プログラム	1名

歯科医師

歯科臨床研修プログラム	6名
-------------	----



研修医の声



Voice

1年次研修医

早川 梓

(写真中央)

研修医になって瞬間に冬を迎えようとしています。私は神奈川県出身で、宮崎大学を卒業し、宮崎で研修させて頂く道を選びました。4月から2か所の市中病院を経て、今は大病院で学ばせて頂いていますが、すべての病院で共通していたのは、先生方やスタッフの方々が大変優しく、どんなことでも熱心に教えてくださるので、がっつり勉強でき、またあらゆる手技も実践でき、非常に環境が恵まれているということです。同期が多いことや卒後臨床研修センターの手厚いサポートも心強く感じています。全てにおいて今後の医師としての心・技・体を身をもって学ばせて頂いています。今は2年目での研修先を決める時期にきていますが、プログラムの選択の幅の広さに迷いを覚える程です。どんな方でも自分の希望に合った研修ができるのではないのでしょうか。自分から積極的にかかわっていく姿勢さえあれば、非常に爽やかな毎日が送れる宮崎大学の研修は本当にお勧めです。



Voice

2年次研修医

齋藤 勝俊

早いもので、研修医生活も残り半年を切ってしまいました。もともと地元横浜での研修を希望していましたが、今では宮崎で研修して良かったと思っています。研修医の期間で重要なのはプライマリケアの能力を鍛えることです。専門的な診断はできなくても、さまざまな病態に対する初め対応と必要な処置を行うだけの能力を身につけることが求められます。さまざまな病院を選べるという、宮崎大学での研修のメリットを活かせば、十分な能力を身につけることが可能です。自分にできているかどうかは別問題ですが…。

自分次第でいかようにも研修をデザインできるし、関連病院にはたくさんのお名前もいました。将来どこで働くにしても、他の有名研修病院で研修した人達に負けたくないくらいの内容の研修ができたと思います。研修医生活をまとめると、宮崎で研修して良かったの一言に尽きると思います。



協力型臨床研修病院・研修協力施設・本院診療科 紹介

協力型 江南病院(宮崎市)



本院は、「地域医療を総合的に支援できる病院」として都道府県知事に承認された病院です。地域の医院や診療所等医療機関間のネットワークをもっと強くし、各々の得意な分野を生かした機能分担による効率的な医療の提供を目指します。病院も平成24年6月には、改修工事も終わり、すばらしい環境と最新の医療設備で研修を受けることができます。特に形成外科においては、他院ではなかなか習得できない技術や症例がありますので、充実した研修が受けられることでしょう。

協力型 和田病院(日向市)

《施設の特徴》

日向入郷地区の二次救急を担う地域の災害拠点病院。脳神経外科を中心に、地域医療に貢献している。救急自動車車載カメラ映像伝送のモニター協力病院になっています。



《脳神経外科》

脳血管疾患症例では、急性期から回復期リハを經由した在宅まで一貫した医療を経験できます。

協力施設 内村病院(小林市)

本院は霧島連山の麓にあり、他県と比較的便利に連絡できる南九州の中央部に位置し、宮崎市、小林市、えびの市、西諸県郡、北西諸県郡、都城市、人吉市(熊本県)、湧水町(鹿児島県)等の広域に在住する患者様に対して精神科医療を提供しています。



若いスタッフも多く、行動面でも思考面でも動きのある、生き生きとした医療を提供することを心がけています。

また、宮崎県下の精神科病院でも草分け的な存在で、その普及にも努めている社会生活技能訓練(CP2名)、エネルギーな作業療法(OT5名)、精神科デイケア・デイナーケア・ショートケアや重度認知症デイケア、グループホームと訪問看護で広域をしっかりとカバーする退院後のフォローアップ、地域と病院を結ぶPSW(9名)のフル活動、看護部による愛情豊かな手厚い看護、情熱的で真剣に患者様と向き合う精神科医師達などの医療体制で地域精神保健のよりいっそうの充実を図っております。

協力施設 都農町国民健康保険病院(都農町)



本院は、内科・外科・整形・小児科の医師とスタッフが一丸となって、「地域包括医療」としての、救急医療から回復期(リハビリテーション)・慢性期(在宅ケア)医療、さらに健(検)診や予防接種などの予防活動まで幅広く取り組んでいます。本院で地域に根ざした医療を学んでみませんか。

本院 脳神経外科

平成18年10月に現竹島秀雄教授が3代目教授に就任し6年が経過した。初代木下和夫教授、第2代脇坂信一郎教授のもとで、地域医療と研究、教育の3つの柱を



作ってきた伝統を引き継ぎつつ、新たな息吹が吹き込まれ、医局員は active に働いている。今年は、当教室から落合先生が大学救急部の教授に昇任され、当院救急部は非常に active となり、脳卒中、多発外傷が増加し、緊急手術も増加した。

本院 救命救急センター

救命救急センターは、宮崎県の救急医療の最後の砦として重症外傷などをはじめ、重症救急疾患を幅広く受け入れており、研修医の先生方は指導医のもとで主役となって多くの症例を経験できます。また、平成24年4月からはドクターヘリの運用も行っており、病院前診療の研修も可能です。救急医療の基礎的知識・基本的手技を修得しつつ、救急医療の醍醐味も十分味わってもらえますので、ぜひ研修にいらしてください。





海外医療体験研修報告



2年次研修医

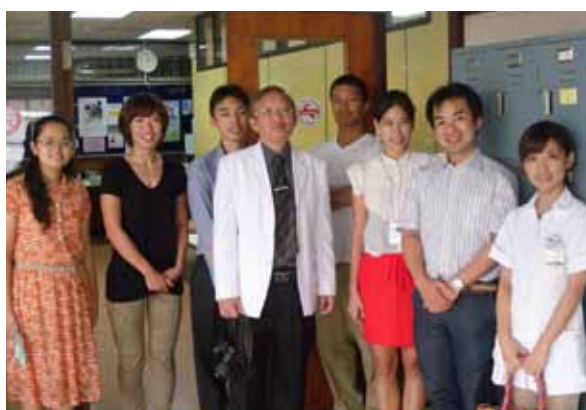
岩切 由佳先生 (写真右から2番目)

ソククラ大学での研修中、タイの医師(研修医)の勉強量、知識量、語学力の高さを目の当たりにし、自分の勉強不足を痛感する毎日でした。今回の研修での最大の収穫は、多くの素晴らしい人々との出会いでした。今後もこの出会いを大切に、それが色々な所へ大きく広がることを期待しています。最後に、このような素晴らしい機会を与えて頂きありがとうございました。私が指導医の立場でこの研修に参加できる日を楽しみにしています。

2年次研修医

高橋 尚宏先生 (写真右から3番目)

今回、私は三週間にわたり、タイはあのハートヤイにある「ソククラ大学」で研修をさせて頂きました。日本とは全く異なる気候や文化の中で、言葉の壁に苦労しながらも、今までにない貴重な経験をさせて頂きました。この経験を、今後の研修やその先にまで役立てられるように、より一層身を引き締めて研修をしなければいけないと思いました。卒後の方々、帯同してくださった先生方、ソククラの方々、本当にありがとうございました。



2年次研修医

藤田 直子先生 (写真左から2番目)

「タイには行った事ないし一月くらい海外の医療を見てもいいのでは。」と軽い気持ちで応募し行かせて貰える事になりましたが、想像以上に充実した研修を送る事ができました。実際にそこで働く人の話を聞き、患者と接している現場を見、国個々に特徴があり、医療問題があるのだと感じましたし、まだまだ自分は勉強不足だという事もタイの研修医と接し痛感し、今後の励みになったのは言うまでもありません。今後もソククラに行く人、ソククラから来る人が充実した研修ができる事を祈っています。今回はこのような機会をありがとうございました。



ベスト研修医賞の創設について

今年度よりベスト研修医賞を実施することとなりました!!

本院の卒後臨床研修プログラムで、2年間の初期臨床研修を通じて、研修技能および姿勢に最も優れた研修医を選出し表彰します。

これまでベスト指導医賞の表彰は行っていましたが、今年度から、1月末に研修先診療科・病院などへベスト研修医の推薦を依頼し、卒後臨床研修センターにて複数の項目を総合的に評価し、上位3名を決定します。なお3月の卒後臨床研修センター修了式においてベスト指導医と併せてベスト研修医を表彰する予定です。ご協力よろしくをお願いします。





指導医からのメッセージ



潤和会記念病院 麻酔科
中村 禎志先生 (写真中央)

世の中インチキも多い。たとえば私のような。子供の頃、大人はずるいと思ったでしょ。忘れたのなら考え方が大人と同じになっただけ。だまされないためには思考の方向を柔軟に変える事ができるよう、知識の地平を広げるしかない。考えるために根を広く深く張る。具体的にどうするのさ。その方法こそ君たちが試行錯誤を繰り返しながら探す事なのです。すぐには見つからないでしょうし、唯一正しい方法はないかもしれない。探し続ける行為の中に、職業人としての生き方があるはずです。



県立延岡病院
矢野 隆郎先生 (写真手前右)

宮崎県立延岡病院麻酔・救急の矢野隆郎です。約30年目の医師です。研修医の方は、毎日(月～金)7:00am-7:45am勉強会(NEJM等)、7:45am-8:00am麻酔カンファ、8:00am-8:15am ICU-HCU回診参加後、担当麻酔に従事し(最低血管確保、気管挿管、腰椎麻酔は経験)ますが、救急車が来る毎にERに行き、様々な救急症例を経験していただきます。当直も各科スタッフ指導下で、月5-6回ほどあります。研修医へのメッセージは"常に、実際の患者を診て聞いて感じる、そしてなぜそうなったかを考える"です。

行事案内

12月	1日(土)	平成25年度研修ローテート等説明会 卒後臨床研修センター忘年会
	10日(月)・11日(火)	1年次研修医グループ面談
	15(土)・16(日)	平成24年度「指導医のための教育ワークショップ」(宮崎市)
2月	2日(土)・3日(日)	第106回 歯科医師国家試験
	9日(土)~11日(月)	第107回 医師国家試験
3月	上旬	第3回医師研修管理委員会(修了判定)
	19日(火)	医師・歯科医師国家試験合格発表
4月	1日(月)~	平成25年度研修医オリエンテーション



宮崎大学 医学部 総務課 卒後臨床研修係 (内線: 2385/2386)

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200
TEL:0985-85-1864 / FAX:0985-85-3101
E-mail:sotugo@med.miyazaki-u.ac.jp